

◆製作～🍷🍷🍷🍷～

以下、製作の流れです。



- ①
まずフォトフレームを分解します。
今回のフォトフレームは
- ・保護用透明シート(右上)
 - ・デフォルトの写真シート(右下)
 - ・裏板(左上)
 - ・フレーム本体(左下)
- という構成になっていました。
ジオラマのベースとしては裏板と
フレーム本体を使用します。



- ②
一旦裏板を取り付け、どの程度フレームにかぶるのかの線を引きます。
この作業をしておくことで、フレームと
干渉する部分の把握がしやすくなります。



- ③
バルバトスがガァン!って出てくる坑道出口を
割り箸で作ってみたいと思います。



④

劇中では下図のような形状で描かれているので、それっぽい感じで割り箸を切って貼ってして作ってみました。

若干大きい気もしますが、まあ、雰囲気です。こういうのは気分が大事なんです。

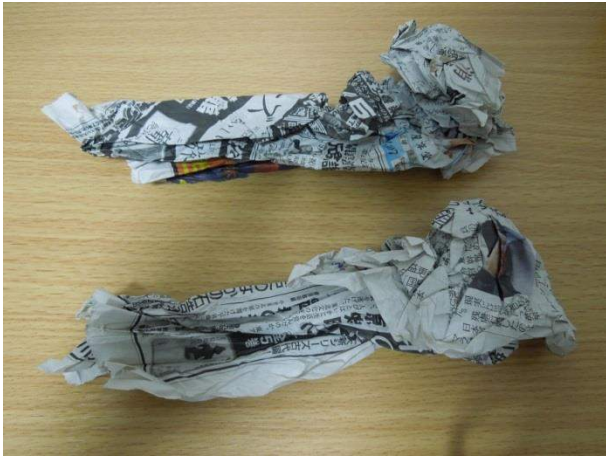


⑤

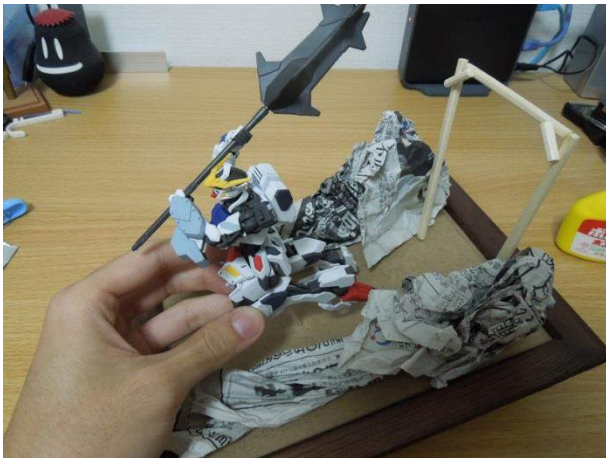
バルバトスのポーズを決めました。

だいたいこんな感じのポーズでグレイズをぶん殴りに跳んでいたように見えたので。ガンプラのポーズ決めの際は実際に自分でポーズをキメてみるとよりイメージしやすくなりますよ。(個人の見解です)

見えづらいですが、バルバトスの股間の穴に固定用のプラパイプを差し込んであります。長さは少々長めにとっておいて、後で切断して調整する方がいいです。



⑥
何をしたいかわからない写真に見えますが、一応斜面をイメージして新聞紙をクシャクシャした状況です。
写真では比較的ゆるめに固めていますが、しっかり固めておくところの後の粘土盛りがやりやすくなります。(後悔の言葉)



⑦
いろいろな部分部分が出来たので、一旦配置して様子見をします。
だいたいイメージどおりの物ができたので、木工ボンドでくっつけられるものはくっつけてしまいましょう。
なおこの時点ではまだバルバトス固定用のプラパイプはベースには固定しないでおきます。粘土盛りの邪魔になるので。



⑧
粘土を盛ります。
この時、少量ずつ粘土をちぎっては伸ばし、盛り付けていくとやりやすいのですが、粘土と粘土の継ぎ目を消すのが少々厄介です。根気よく、ただし心が折れない程度に、頑張りましょう。
水を含ませた粘土でなぞると、継ぎ目が消えやすいです。



- ⑨
粘土盛りが完了後，バルバトス固定用の穴を開け，そこにプラパイプを接着します。
外れないよう，しっかり瞬間接着剤等で接着しましょう。



- ⑩
バルバトスの足元や後方の隙間が寂しいので，綿で土埃を表現します。
この綿も100円ショップで購入したものです。



- ⑪
綿を適量ちぎり，先細りになるようにまとめ，バルバトスの足元に配置していきます。
画像では少々わかりづらいですが，綿によって情報量が格段に増えました。

- ⑫
ベース全体を土の色に塗装します。土埃も同じ色で構いません。
多少の色ムラは気にしなくていいと思います。実際の土だって全部同じ色というわけではないので。



⑬

塗装終了後，まだ少々全面に寂しさを感じたので，パセリを散らしました。

このパセリも100円ショップで購入したものです。

このパセリは3年ほど前，私が初めて簡易ジオラマを作った際に使用したもので，賞味期限は過ぎ，若干枯れています。

しかし，鉄血のオルフェンズの世界の戦場にはあまり青々とした草は似合わないため，かえっていい味を出してくれています。

あと若干いい香りも。

以上，完成です！

…

……

…………

え？完成写真がないって？

そんなもの，学祭の展示で確認しろ！！

塗装ムラによるリアリティやパセリの作り出すいい雰囲気，

ぜひとも自分で感じ取れ！！

(撮影は自由です)

はじめまして、東北大 M1 の大柳です。

今回はサイバーホビー「ドイツ軍重戦車 ティーガーI 極初期型 第 502 重戦車大隊 レニングラード 1942/3」をベースにチュニジアに派遣された第 501 重戦車大隊のティーガーをつくりました。エアクリナーなど足りないパーツは適宜タミヤのキットから移植しました。サイバーホビーからはアフリカンティーガーの決定版がでるようなのでそちらがあれば工作の面倒は減るでしょう。エッチングには voyger のものを、履帯はモデルカステンのものを使用しました。

実車について

第 501 重戦車大隊の 732 号車は元は 132 号車だったようで、いずれも比較的多くの写真が残っています。132 号車と 732 号車とでは車体右側面のスコップなど細部に違いがありますが、今回は 132 号車の特徴をもった 732 号車としています。アフリカのティーガーについては <http://tiger1.info/> を参考にしました。

車体について

おおむねパーツの合いはいいですが、車体上面部のとりつけはよく擦り合わせをしたほうがよいでしょう。後部のエアクリナーからのびるパイプが一番の鬼門でエッチングパーツともどもよく擦り合わせが必要でした。それにあわせて後部ジャッキステー位置も調整します。

砲塔について

戦車長ハッチ、砲手用ハッチを稼動可しました。ピンバイスで穴をあけ、真鍮線を通すだけの簡単な作業なので是非やりたいところ。

塗装について

流行のカラーモジュレーションをしています。ハイライト色はもっと明度が高くてもよかったと後悔。その後、油絵の具を使ったフィルタリングとウォッシングをしています。ネイプルスイエローを退色した黄色として多用しています。その後はピグメント。ダイソーはパステルがとても充実していておすすめです。その際は穴空きヤスリを一緒に買いましょう。瓶の上に穴空きヤスリを置いてパステルを削れば勝手にピグメントができます。実車写真を見ると湿った泥で汚れている場面も多くありますが、見てる人に砂漠のイメージを与えるために

泥色は控えめにしています。チップングはくどくならないように。

フィギュアについて

タミヤのキット付属のアフリカ戦車兵を使っています。ヘッドはアルパインに変えています。ジャーマングレーの略帽がアイキャッチになっています。

ベースについて

こちらも流行のアイランド形式です。チュニジアは砂より岩の多いのでそのように作りました。ネームプレートは適当な厚さのプラ板に印刷したデカールを貼って仕上げました。

最後に

僕はひとつの作品につき、最低ひとつ新しいことに挑戦することをモットーにしています。今回はベースとプレートに挑戦したのですが、如何でしょうか。この二つは初めてなので作風がお気に入りの中須賀岳史氏を模倣しています。これをステップに自分の作風が出来上がっていけばいいと思います。読んで頂きありがとうございました。

模型用語集

- 合わせ目

パーツ同士を合わせた部分のこと。当然、完全に密着しないので溝ができてしまう。それを接着剤で埋めてやるのが合わせ目けしである。

- エアブラシ

塗装のための用具。一般に化粧などでも使われる。
塗料を霧状に噴き出すことで着色する。

- クリアー

≒トップコート。キットの表面を保護するための透明な塗料。
艶消しなどもある。

- サーフエイサー(サフ)

塗装前に下地に吹くもの。灰色、黒など様々な色が用意されている。
表面処理の具合を確認する役割や、下地色を均等にする役割もある。
また、サーフェイスによってキットが透けるのを防ぐこともできる。

- 自作キット

個人の作ったフィギュアをレジンで複製したもの。≒レジンキット。
高い。完成度が低い。大抵稼働しない。
ワンダーフェスティバルなどで入手が可能。転売も一応……。

- 素組

買って来たキットをそのまま組み上げること。模型研の大半がこれに満足できない。
展示中のキットで言うと大和(実艦)。
亜流にこの後艶消しスプレーを吹く艶消しフィニッシュなどがある。

- パーティングライン

キットの金型に流し込んだ際に生まれる金型の合わせ目が出っ張りになってしまった部分。表面処理にてこれをやすりで平らにする。

- ヒケ&ヨレ

プラスチックの硬化時にキットが凹んでしまった部分。
表面処理でヒケ&ヨレの修正をする。

- マステ(マスキングテープ)

塗装の用具。決してインテリアの小物ではない。

マスキングテープで塗料のつく部分とつかない部分を使うことを塗り分けという。

- レジンキット

レジンという材質を使ったキット。今回の作品で言うと大和やミクなど。

質の悪い石膏像のようなものだと思って貰えるとだいたいあってる。

自作キットなどは一般的にこのレジンキットである。

- ワンフェス(ワンダーフェスティバル)

自作キットの交換会。模型会のコミケ。

著作権者から許可を得ているのでコミケと違ってT P Pでも安心。

編集後記

11年ぶりに復活した「PHOENIX」ですが、今年はこれまでとかなり異なったスタイルでの発行となりました。紙媒体からデジタル媒体にしたことで印刷代を気にする必要がなくなり、中身も以前の文字オンリーから、写真をふんだんに使ったものに生まれ変わりました。技術の進歩ってすごい。

私たちの代は、模型研にとってかなり(いい意味で)異色の年でした。私は現在2年生ですが、私たちの学年は初めの頃7人ほどいたのが、現在ではたったの3人になってしまいました。来るもの拒まず、去る者追わずの模型研にとってはさして珍しいことではありません。ところが今年の1年生は、入部した6人が一人も欠けずに残っているのです。それだけでなく、基本自由活動の模型研では、部室に来たのに誰もいないということもザラだったのですが、今年はほぼ毎日誰かしら(主に会長と会計)がいます。それだけ、今年の模型研部員の熱意はすごいのです。PHOENIX復活も、その一環でございます。

このPHOENIXを読んで少しでも模型づくりに興味が湧いた貴方、模型研はいつでも新入部員歓迎です。サークル棟F6(駐輪場の近く)にて活動していますので、ぜひお越しください。

最後になりますが、これを手にとって(ダウンロードして)読んでいただき、ありがとうございました。少しでも楽しんでいただけましたなら幸いです。

2015年10月31日 模型製作研究会会計 阿部健太

PHOENIX Vol.40

2015年11月1日 発刊